

7. 横矢板入れ

(1) 準備

1) 作業概要

矢板面積 500 m²

矢板の厚さ 35 mm

平均切断寸法 1.15 m

使用工具：ハンマー、スコップ、ツルハシ、携帯用丸鋸

保護具：保安帽、安全帯、長靴、安全靴

2) 有資格者の確認をする。

a. 土止め支保工作業主任者。

b. 玉掛技能講習修了者。

c. クレーン運転士、5 t 以上免許、5 t 未満特別教育修了者。

3) 掘削深さが1.5m 程度以上になった場合には、昇降のためのはしご、登りさん橋等の昇降設備を設ける。

4) 矢板仮置場の確保。

5) 横矢板の所要厚さは、通常親ぐいの間隔、掘削深さ、土質等によって異なるので仕分けをする。

(2) 本作業

1) 矢板を入れる所の長さを測る。

a. 横矢板は、親ぐいのフランジに十分かかる長さのものを用いる(3 cm 以上)。

2) 裏の土を

a. 矢板が親ぐいから親ぐいまでできる線まで垂直に、かつ、一直線になるように裏に裏が空かないようにする。

b. 。

3) 矢板

a. 横矢板の位置を親ぐい、作業分担区域をきめ、機械の稼動範囲を確保する。

b. 1 回の掘削で、親ぐいから親ぐいまで入ることができる程度(すでに入れた矢板の下端から親ぐいまで)とする。

c. 水の出るところでは矢板と矢板との間隙を開けない。

4) 裏込めをする。

a. 矢板は親ぐいへのかかりしろ 25 mm ~ 30 mm 以上とする。

b. 矢板を差込んだら、1 枚ごとに土(砂まじりの粘土)を入れて十分に締め固める。

5) キャンバー締めを行う。

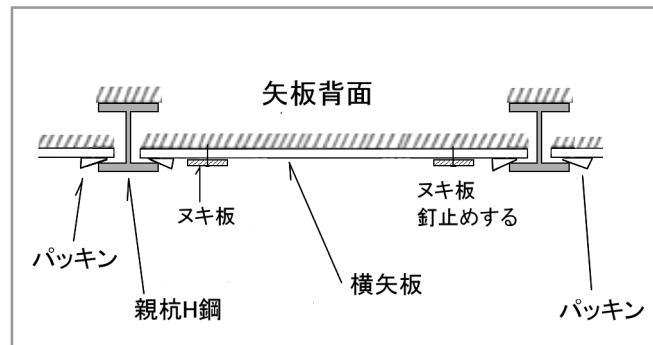
a. パッキングを打込んでガタがあるときは裏込め矢板を用いて裏から締める。

6) キャンバー押え桟木を取付ける。

- a. 矢板を深さ方向に固定する。必要ならば矢板押え用の「ヌキ板」(巾3cm、厚さ1cm)を取付ける。

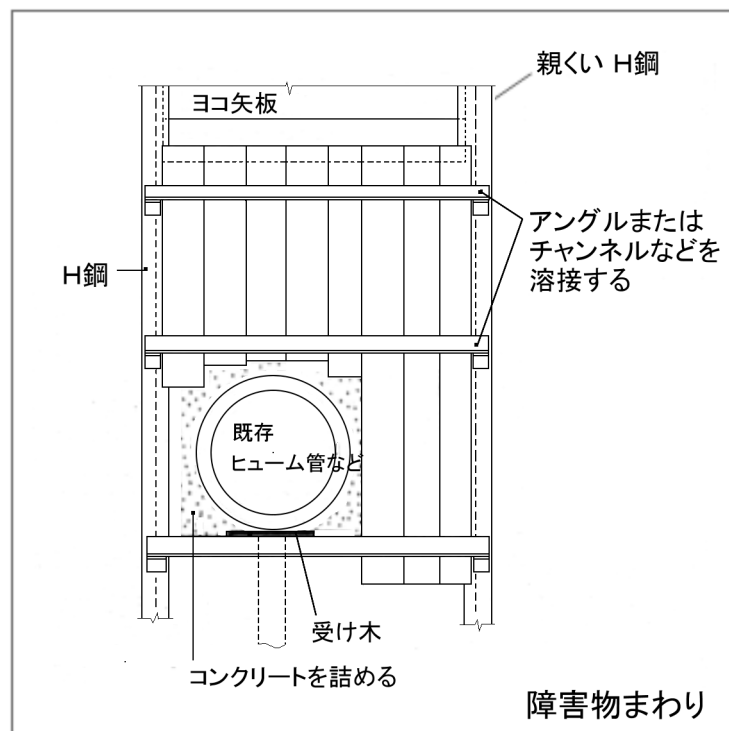
7) H鋼と矢板の間にバタ角を入れる。

- a. 間隔が大きい場合は、2枚に1本というように補強用のバタ角を入れる。
- b. 必要以上の間隔がある場合は、チャンネル等をH鋼に溶接し、それとバタ角にクサビを入れてとめる。



8) 埋設物周りの矢板の補強をする。

- a. 埋設物周りは、間隙が生じないように完全に矢板などでふさぐ。
- b. 埋設物周りが漏水しているときは、ワラ、杉の葉または土嚢袋を詰め込んで土砂の流出を防ぐ。



9) 矢板面をハンマーでたたき空隙の有無をチェックする。

- a. 裏面をハンマーでたたき矢板の隙間のないようにする。
- b. 山が移動始めるとキャンバが落ちる。
- c. 防止の処置をする。
- d. 掘削を完成させる。
- e. 矢板面をハンマーでたたき状況をチェックする。